

現代日本学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
現代日本学概論Ⅰ	現代日本における職業	2	田中 重人	3	月	4	現代日本論概論
現代日本学概論Ⅱ	現代日本学の方法と対象	2	茂木 謙之介	4	月	4	現代日本論概論
現代日本学基礎講読Ⅰ	英語の日本史の購読の紹介	2	クレイグ クリスター	3	月	2	現代日本論基礎講読
現代日本学基礎講読Ⅱ	文芸社会史研究の実践	2	高橋 章則	4	月	2	現代日本論基礎講読
現代日本学各論Ⅰ	文芸社会史入門	2	高橋 章則	5	水	2	現代日本論各論
現代日本学各論Ⅰ	文芸社会史研究	2	高橋 章則	6	水	2	現代日本論各論
現代日本学各論Ⅱ	日本史文献購読・英訳	2	クレイグ クリスター	5	火	3	現代日本論各論
現代日本学各論Ⅲ	現代日本における家族と人口	2	田中 重人	6	木	2	現代日本論各論
現代日本学各論Ⅳ	近現代皇室の表象	2	茂木 謙之介	5	火	2	現代日本論各論
現代日本学各論Ⅳ	インターカルチャー的視点に基づいた日本哲学概観	2	エンリコ フォンガロ	6	木	5	現代日本論各論
現代日本学各論Ⅴ	戦後日本マンガの学術的研究	2	高橋 明彦	6			現代日本論各論
現代日本学演習Ⅰ	現代日本学の実践	2	高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリスター、茂木 謙之介	5	水	3	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅰ	文芸社会史研究の実践	2	高橋 章則	5	月	2	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅰ	質問紙調査の基礎	2	田中 重人	5	金	5	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅱ	現代日本学研究の実践	2	高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリスター、茂木 謙之介	6	水	3	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅱ	近代日本史における震災	2	クレイグ クリスター	6	火	3	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅱ	統計分析の基礎	2	田中 重人	5	金	4	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅲ	現代日本における社会問題の分析	2	田中 重人	5	木	2	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅳ	調査的面接の基礎	2	田中 重人	6	金	5	現代日本論演習
現代日本学演習Ⅴ	実践的統計分析法	2	田中 重人	6	金	4	現代日本論演習

科目名：現代日本学概論 I / Innovative Japanese Studies (General Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

Semester : 3, 単位数 : 2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB31401, 科目ナンバリング：LHM-OHS204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論概論 】

1. 授業題目：

現代日本における職業

2. Course Title (授業題目)：

Work in Japan

3. 授業の目的と概要：

職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。授業においては、およそ 2 回に 1 回の割合で、これらのトピックに関連したテーマを設定して、授業時間内に作文を完成させる課題を課します。また、法律や統計などの資料を探索・解釈する宿題を課すこともあります。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Lecture on issues related to work in contemporary Japan, based on sociology and related fields: economics, management, law, and so on. Topics will be as follows: labor statistics, labor law and policies, internal and external labor market, career and lifecourse, social stratification and social mobility, and gender and work.

5. 学習の到達目標：

現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する

6. Learning Goals(学修の到達目標)

To understand issues about work in contemporary Japan

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 労働統計(1) さまざまな働きかた
- 労働統計(2) 賃金と労働時間
- 雇用をめぐる法と政策
- 外部労働市場と内部労働市場
- 企業の人事管理と労働者のキャリア
- ここまでの復習と進度確認課題
- 社会階層と職業
- 社会移動と職業・教育
- ジェンダーと労働
- 社会的不平等と職業
- 課題再提出と進度確認課題
- 課題返却と講評

8. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】厚生労働省 (2017) 『知って役立つ労働法』。

労働政策研究・研修機構 (2010) 「特集：初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』 597.

宮本太郎 (2009) 『生活保障』岩波書店。

犬塚先 (編) (2003) 『新しい産業社会学』(改訂版) 有斐閣。

嵩さやか・田中重人 (編) (2007) 『雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会。

10. 授業時間外学習：

各回の課題・宿題

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本学概論Ⅱ／ Innovative Japanese Studies (General Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介 (准教授)

講義コード：LB41401, 科目ナンバリング：LHM-OHS205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論概論 】

1. 授業題目：

現代日本学の方法と対象

2. Course Title (授業題目)：

Methodology and target of Japanese Studies

3. 授業の目的と概要：

本講義では現代日本学の基礎的な方法について概説する。「メディア」・「表象」・「言説」をキーワードとして、現代日本学研究の方法の一端を紹介し、具体的な検討を通して理解を図る。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course covers the basic method of Innovative Japanese Studies. In this course, students will understand methods through, tinkering about "media", "representation" and "discourse" as keywords.

5. 学習の到達目標：

現代日本学の方法について理解し、適切に対象を論じられるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will develop basic methods of Japanese Studies and discuss topics about Japanese Studies.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 インTRODククション

第2回 日本学の歴史

第3回 歴史と物語①

第4回 歴史と物語②

第5回 メディア①

第6回 メディア②

第7回 表象①

第8回 表象②

第9回 言説①

第10回 言説②

第11回 実践①

第12回 実践②

第13回 実践③

第14回 実践④

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。各自ノートを取ることを。

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学基礎講読 I / Innovative Japanese Studies (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー (准教授)

講義コード：LB31201, 科目ナンバリング：LHM-OHS206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論基礎講読 】

1. 授業題目：

英語の日本史の購読の紹介

2. Course Title (授業題目)：

An Introduction to Reading Japanese History in English

3. 授業の目的と概要：

英語で書かれた日本史の文献を取り上げその課題と方法・用語を習得し日本語に翻訳する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students will be introduced to works on Japanese history written in English, will gain an understanding of the issues, methods, and vocabulary used in them, and will translate them into Japanese.

5. 学習の到達目標：

英語の日本史研究の方法と課題の特色を理解して、多分野を用いる歴史学の方法と歴史学に関する翻訳の方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will gain an understanding of the characteristic methods and issues in English-language Japanese historical research, learn to conduct historical research using methods from a variety of disciplines, and develop skills in translating historical scholarship.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：講読についての解説①

第2回：講読についての解説②

第3回：講読①

第4回：講読②

第5回：講読③

第6回：講読④

第7回：講読⑤

第8回：講読⑥

第9回：講読⑦

第10回：講読⑧

第11回：講読⑨

第12回：講読⑩

第13回：講読⑪

第14回：講読⑫

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

発表 (レポートを含む) [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む)

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：

購読を設定した時間にレポートを用意し、発表する。

Students will be assigned class meetings for which to prepare a report and make a presentation.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

読むテキストは英語で、授業やディスカッションは日本語で行う。

Texts to read will be in English, while the class instruction and discussion will be in Japanese.

科目名：現代日本学基礎講読Ⅱ／ Innovative Japanese Studies (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB41201, 科目ナンバリング：LHM-OHS207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論基礎講読】

1. 授業題目：

文芸社会史研究の実践

2. Course Title (授業題目)：

History of Society and the Arts (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

文芸（「狂歌」）と用いた社会史研究の方法を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students will learn methods for conducting social history research using literary “comic tanka”

5. 学習の到達目標：

日本文化研究の方法としての文芸社会史研究の意義を理解し、研究方法を習熟する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will gain an understanding of the significance of researching the history of society and the arts as a method of studying Japanese culture and will master research methods.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：はじめに—文芸社会史とは何か—

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第3回：「狂歌」の歴史的な意義

第4回：「狂歌」を用いた歴史研究

第5回：文芸（「狂歌」）と美術（「浮世絵」）

第6回：課題の設定と成果①

第7回：課題の設定と成果②

第8回：課題の設定と成果③

第9回：課題の設定と成果④

第10回：課題の設定と成果⑤

第11回：課題の設定と成果⑥

第12回：課題の設定と成果⑦

第13回：課題の設定と成果⑧

第14回：課題の指摘と発展的考察①

第15回：課題の指摘と発展的考察②

定期試験

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

附属図書館の古典籍を利用し、発表資料を作成する。

授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

附属図書館の古典籍に触れる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学各論 I / Topics in Innovative Japanese Studies I

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB53201, 科目ナンバリング：LHM-OHS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論各論 】

1. 授業題目：

文芸社会史入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to the History of Society and the Arts

3. 授業の目的と概要：

「書物の社会史」に関する基礎文献を取り上げ、文芸社会史研究の基盤を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will take up the fundamental texts related to the humanities, cultural history, historical studies, and social history and will investigate the fundamentals of Japanese Studies

5. 学習の到達目標：

「書物の社会史」に関する基礎文献を取り上げ、文芸社会史研究の基盤を考察する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will gain an understanding of the significance of research in the history of society and the arts as a method for the study of Japanese culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：はじめに—日本学の課題を考える—

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第3回：人文科学の課題

第4回：文化史学の課題

第5回：歴史学の中の文化史学

第6回：「書物の秩序」

第7回：「読書の社会史」

第8回：文献学と文芸社会史

第9回：文芸社会史の研究①

第10回：文芸社会史の研究②

第11回：文芸社会史の研究③

第12回：日本学の課題と文芸社会史①

第13回：日本学の課題と文芸社会史②

第14回：日本学の可能性

第15回：まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：

学期末のレポート [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。

R・シヤルヘ 『読書の秩序』(文化科学高等研究院出版局)・その他、授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

「書物の社会史」に関する基礎文献の把握に努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代日本学各論 I / Topics in Innovative Japanese Studies I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB63201, 科目ナンバリング：LHM-OHS301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論各論 】

1. 授業題目：

文芸社会史研究

2. Course Title (授業題目)：

History of Society and the Arts

3. 授業の目的と概要：

人文科学・文化史学・歴史学・社会史に関する基礎文献を取り上げ、日本学の基盤を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will take up the fundamental texts related to the humanities, cultural history, historical studies, and social history and will investigate the fundamentals of Japanese Studies.

5. 学習の到達目標：

日本文化研究の方法としての文芸社会史研究の意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will gain an understanding of the significance of research in the history of society and the arts as a method for the study of Japanese culture.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：はじめにー日本学とは何かー

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第3回：人文科学の特色①

第4回：人文科学の特色②

第5回：文化史学とは①

第6回：文化史学とは②

第7回：歴史学再考①

第8回：歴史学思考②

第9回：社会史とは①

第10回：社会史とは②

第11回：文芸社会史とは

第12回：文芸社会史の研究手法

第13回：文芸社会史と個人史

第14回：文芸社会史と地域史

第15回：まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：

学期末のレポート [60%] と出席 [40%] (授業中の対話を含む)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。

授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

人文科学・文化史学・歴史学・社会史に関する基礎文献に触れる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学各論Ⅱ／ Topics in Innovative Japanese Studies II

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：クレイグ クリストファー（准教授）

講義コード：LB52301, 科目ナンバリング：LHM-OHS302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論各論 】

1. 授業題目：

日本史文献購読・英訳

2. Course Title (授業題目)：

Reading and Translation Fundamentals for Japanese History

3. 授業の目的と概要：

購読と英訳を通じて、日本語の歴史文献を読書・翻訳の基礎技術を学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Using student reading and translation presentations, this class aims at providing basic skills and practice in reading and translating Japanese academic history writing.

5. 学習の到達目標：

将来の日本語の文献に関する事業のために基礎の読書と翻訳の能力を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this class is to provide a basis in reading and translation for future work involving academic, particularly historical, works in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 文献の紹介
2. 文献購読・英訳
3. 文献購読・英訳
4. 文献購読・英訳
5. 文献購読・英訳
6. 文献購読・英訳
7. 文献購読・英訳
8. 文献購読・英訳
9. 文献購読・英訳
10. 文献購読・英訳
11. 文献購読・英訳
12. 文献購読・英訳
13. 文献購読・英訳
14. 文献購読・英訳
15. 文献購読・英訳

8. 成績評価方法：

翻訳・出席[70%] 提出翻訳[30%]

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読んで英訳する。

1回書いた英訳を提出する。

Students are expected to read and translate assigned sections for each class. All students will present their reading and translation in each class meeting. One polished translation is to be submitted for grading.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

Class instruction will be largely in English, but the source material will be in Japanese, making proficiency in both languages necessary.

科目名：現代日本学各論Ⅲ／ Topics in Innovative Japanese Studies III

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB64201, 科目ナンバリング：LHM-OHS303J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論各論 】

1. 授業題目：

現代日本における家族と人口

2. Course Title (授業題目)：

Family and Population in Modern Japan

3. 授業の目的と概要：

特に家族制度と人口現象に注目して、近代以降の日本社会について講義する

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

現代日本社会の分析のために必要な知識と方法を知る

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：はじめに：社会分析のための知識と方法

第2回：法と規範

第3回：法的な情報を調べる方法

第4回：現代日本の家族法について受講生からの報告と討論

第5回：現代日本の家族法について補足説明

第6回：人口統計と人口現象

第7回：20世紀日本社会の人口変動

第8回：講義前半の振り返りと進度確認

第9回：ライフサイクルの変化

第10回：近代化にともなう社会変動

第11回：工業化と都市化

第12回：イエ制度の解体と個人主義化

第13回：日本的経営と福祉国家

第14回：講義後半の振り返りと進度確認

第15回：講義全体のまとめと講評

8. 成績評価方法：

授業中に課す課題および宿題による

9. 教科書および参考書：

なし

10. 授業時間外学習：

各回の課題に対応する予習・復習と宿題

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代日本学各論Ⅳ／ Topics in Innovative Japanese Studies IV

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：茂木 謙之介（准教授）

講義コード：LB52201, 科目ナンバリング：LHM-OHS304J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論各論 】

1. 授業題目：

近現代皇室の表象

2. Course Title (授業題目)：

Study on representation of Japanese Royal family

3. 授業の目的と概要：

本講義では、近現代皇室の表象の検討を通して日本学研究の可能性を考える。具体的には令和改元前後の天皇と皇室をめぐる様々なイメージを検討し、それらが現代日本社会においていかに位置づけられるのかを考察する。参加者には積極的なアウトプットを求める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course offers an opportunity to think about possibility of Japanese Studies, from analyze of representation of Modern Japanese royal family. In particular, this course focus on images of the Emperor and royal family before and after the "Reiwa" reform and think about the meaning of those images in modern Japanese society. This course calls for audiences active participation.

5. 学習の到達目標：

近現代の皇室表象の検討を通して、日本学研究について知見を得ることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students better understand diversity in Japanese Studies while learning about the representation of modern Japanese royals,

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第1回 イントロダクション

第2回 天皇制と表象

第3回 天皇・皇室表象の"限界"

第4回 「ビデオメッセージ」の政治学

第5回 改元と政治

第6回 改元とSNS

第7回 アイドル文化と天皇①

第8回 アイドル文化と天皇②

第9回 ポップカルチャーと天皇①

第10回 ポップカルチャーと天皇②

第11回 「天皇映画」としての『シン・ゴジラ』

第12回 天皇とオカルト的想像力①

第13回 天皇とオカルト的想像力②

第14回 小笠原諸島という"現場"

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代日本学各論Ⅳ／ Topics in Innovative Japanese Studies IV

曜日・講時：後期 木曜日 5 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：エンリコ フォンガロ（准教授）

講義コード：LB64501, 科目ナンバリング：LHM-OHS304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論各論 】

1. 授業題目：

インターカルチャー的視点に基づいた日本哲学概観

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Japanese philosophy from an intercultural perspective

3. 授業の目的と概要：

インターカルチャー的視点から日本哲学について、京都学派を中心として概観し、理解を深める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to deepen the understanding of contemporary Japanese philosophy from an intercultural point of view, focusing on the so called “Kyōto School”.

5. 学習の到達目標：

日本哲学とは何か、またその変遷について京都学派を中心として、重要なキーワードに沿って解説を行なう。それと同時に哲学と翻訳の本質的な結びつきに関して論じる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

What is “Japanese philosophy”? How did it develop? This course aims to try an answer to such problems through the introduction of some fundamental keywords. At the same time, it gives the opportunity to think about the essential link between “philosophy” and “translation”.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：日本哲学とは

第2回：日本哲学における翻訳の問題

第3回：現代日本哲学入門

第4回：日本哲学における「京都学派」

第5回：西田幾多郎の哲学 (1) 純粋経験

第6回：西田幾多郎の哲学 (2) 場所とその論理

第7回：西田幾多郎の哲学 (3) 弁証法的世界

第8回：西田幾多郎の哲学 (4) 西田の美学

第9回：西田幾多郎の哲学 (4) 行為的直観

第10回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (1)

第11回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (2)

第12回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (3)

第13回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (4)

第14回：各自のテーマにもとづいて発表・議論 (5)

第15回：インターカルチャーの立場から見た京都学派の「解体」の可能性について

8. 成績評価方法：

授業態度、発表、討論を総合して評価する。

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：

課題文献を読み、授業内容をより深く理解すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学各論V／ Topics in Innovative Japanese Studies V

曜日・講時：後期集中 その他 連講

semester：6, 単位数：2

担当教員：高橋 明彦（非常勤講師）

講義コード：LB98801, 科目ナンバリング：LHM-OHS305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論各論 】

1. 授業題目：

戦後日本マンガの学術的研究

2. Course Title (授業題目)：

Academic Research in Postwar Japanese Manga

3. 授業の目的と概要：

戦後日本のマンガを学術的に研究すべく、マンガ独自の表現方法に即して作品を論ずる方法（マンガ表現論）、および文献学を基礎として作家・作品を総合的に論ずる方法（文献学的アプローチ）を学びます。加えて、代表的なマンガ作品の分析を通じて、現代日本のサブカルチャーの一端にも触れます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Postwar Japanese manga is deserving of academic study, and students will learn methods of thoroughly studying works based on the particular expressive styles of manga (theories of manga expression) and methods of comprehensively studying authors and their works based on literary theory (philological approach). In addition, by analyzing recent works of manga, we will also touch upon one aspect of contemporary Japanese subcultures.

5. 学習の到達目標：

戦後日本のマンガに対する思潮の理解、および学術的研究方法の習得

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Thought and methods for the study of postwar Japanese manga

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：マンガ表現論・総論／マンガ描線の記号性と力動性

第2回：同／コマ割りの継起性

第3回：同／コマ割りの並存性

第4回：マンガ表現論・各論／視線誘導論

第5回：同／キャラクター論

第6回：文献学的アプローチ／文献学の構造と方法（基礎研究）

第7回：同／マンガをメディア史的に概観する（歴史的展開研究）

第8回：サブカルチャーの思潮／こどもは成長するースポ根と『釣りキチ三平』、正義と『デスノート』、労働と『ヒミズ』

第9回：同／少女は変容するーお母さま・恋愛・美少年、『洗礼』『11人いる！』

第10回：同／青年は挫折するー友情・努力・勝利から嫉妬・才能・挫折へ、『ピンポン』

第11回：同／世界は滅亡する①『来るべき世界』『赤いトナカイ』

第12回：同／世界は滅亡する②『漂流教室』『風の谷のナウシカ』『14歳』

第13回：同／セカイは滅亡する『わたしは真悟』『最終兵器彼女』

第14回：同／革命は失敗する①『悪魔くん（貸本版）』

第15回：同／革命は失敗する②『忍者武芸帳』『カムイ伝』

定期試験：毎時間ミニレポートを課します（5分程度）。

8. 成績評価方法：

授業内容に関するレポートを課します。理解・達成度を判定して成績を付けます。

9. 教科書および参考書：

テキスト：プリントを配布します（多量に配布するので各自できちんと整理してください）。

参考書・参考資料等：高橋明彦『楳図かずお論』（青弓社・2015年刊）には、マンガ表現論に関する総論が記してあります。

上記授業計画で示したマンガ作品については、古典的名作ですから、事前に読んでおくことを勧めます。その他の参考書・研究書、マンガ作品も、授業の中で紹介します。

10. 授業時間外学習：

戦後日本のマンガに対する思潮に着目する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学演習 I / Innovative Japanese Studies Seminar I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリストファー、茂木 謙之介（教授・准教授）

講義コード：LB53301, 科目ナンバリング：LHM-OHS308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論演習 】

1. 授業題目：

現代日本学の実践

2. Course Title (授業題目)：

Innovative Japanese Studies (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.

5. 学習の到達目標：

日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will learn to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：はじめにー日本学とは何かー

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

報告に関する知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：現代日本学演習 I / Innovative Japanese Studies Seminar I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：高橋 章則（教授）

講義コード：LB51201, 科目ナンバリング：LHM-OHS308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論演習 】

1. 授業題目：

文芸社会史研究の実践

2. Course Title (授業題目)：

History of Society and the Arts (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

文芸（「狂歌」）と用いた社会史研究の方法を習得する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Students will learn methods for conducting social history research using literary “comic tanka”

5. 学習の到達目標：

日本文化研究の方法としての文芸社会史研究の意義を理解し、研究方法を習熟する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will gain an understanding of the significance of researching the history of society and the arts as a method of studying Japanese culture and will master research methods.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第 1 回：はじめに一文芸社会史とは何かー

第 2 回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第 3 回：「狂歌」の歴史的な意義

第 4 回：「狂歌」を用いた歴史研究

第 5 回：文芸（「狂歌」）と美術（「浮世絵」）

第 6 回：課題の設定と成果①

第 7 回：課題の設定と成果②

第 8 回：課題の設定と成果③

第 9 回：課題の設定と成果④

第 10 回：課題の設定と成果⑤

第 11 回：課題の設定と成果⑥

第 12 回：課題の設定と成果⑦

第 13 回：課題の設定と成果⑧

第 14 回：課題の指摘と発展的考察①

第 15 回：課題の指摘と発展的考察②

定期試験

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

附属図書館の古典籍を利用し、発表資料を作成する。

授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

附属図書館の古典籍に触れる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学演習 I / Innovative Japanese Studies Seminar I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：田中 重人 (准教授)

講義コード：LB55501, 科目ナンバリング：LHM-OHS308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論演習 】

1. 授業題目：

質問紙調査の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of Questionnaire Survey

3. 授業の目的と概要：

質問紙を使った調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、質問紙調査の基本的な概念と方法、仮説設定からレポート作成までの一連のプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、テーマへの理論的アプローチを検討し、質問紙を作成し、調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is an introductory course for the questionnaire survey method. Students acquire basic knowledge and skills through planning and conducting a survey based on their own theme, as well as taking lectures on concepts and methods of questionnaire survey.

5. 学習の到達目標：

(1) 質問紙調査の長所と短所を把握する；(2) 質問紙調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To know the advantage and disadvantage of the questionnaire survey method;
- (2) To learn the real process of questionnaire surveys by practice

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- インTRODakション
- 調査課題の設定
- 既存調査と先行研究の探索
- 調査対象者と調査方法
- 調査の企画
- 質問文と回答欄
- 調査実施について面談
- 調査票の構成
- 調査票の検討
- エディティングとコーディング
- データの入力と点検
- 報告書の執筆
- 調査結果発表会
- 全体のまとめとレポート執筆についての相談

8. 成績評価方法：

授業中の課題 (40%)、学期末に提出する質問紙 (30%)、調査結果に基づくレポート (30%) を合計して評価する。

9. 教科書および参考書：

【教科書】轟亮・杉野勇 (編) (2017) 『入門・社会調査法 [第3版]』法律文化社。

10. 授業時間外学習：

毎回の課題と調査の企画・実施およびレポート作成

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

5 セメスタ開講の現代日本学演習 II 「統計分析の基礎」 をあわせて履修することが望ましい。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本学演習Ⅱ／ Innovative Japanese Studies Seminar II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：高橋 章則、田中 重人、クレイグ クリストファー、茂木 謙之介（教授・准教授）

講義コード：LB63301, 科目ナンバリング：LHM-OHS309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論演習 】

1. 授業題目：

現代日本学研究の实践

2. Course Title (授業題目)：

Innovative Japanese Studies (Practicum)

3. 授業の目的と概要：

日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will take up the fundamental texts of the various academic disciplines concerned with Japanese Studies and choose and present on a research topic.

5. 学習の到達目標：

日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will learning to practically engage with the wide variety of methodological theories concerned with Japanese Studies and discover new issues while presenting their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：はじめにー日本学とは何かー

第2回：文献・研究課題に関わるガイダンス①

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス②

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：社担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

定期試験

8. 成績評価方法：

発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。

参考書は授業の中で随時紹介する。

10. 授業時間外学習：

報告に関する知見を拡充する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学演習Ⅱ／ Innovative Japanese Studies Seminar II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：クレグ クリストファー (准教授)

講義コード：LB62301, 科目ナンバリング：LHM-OHS309J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論演習】

1. 授業題目：

近代日本史における震災

2. Course Title (授業題目)：

Disasters in Modern Japanese History

3. 授業の目的と概要：

19世紀から現在の災害を紹介し、歴史学及び社会学的に分析する。地震、飢饉、津波のような自然災害の外に、空爆や炉心溶融のような人工的な災害も含む。近代日本の代表的な災害を世界の災害の事例と比較し、グローバルヒストリーの文脈に分析する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course will introduce the history of disasters in Japan from the 19th century to the present and subject them to historical and sociological analysis. Alongside natural disasters like earthquakes, famines, and tsunami, the course will also treat man-made calamities like aerial bombing and nuclear meltdowns. By comparing representative disasters in Japan with their analogues around the world, this class will consider Japanese disasters in the context of global history.

5. 学習の到達目標：

日本震災史に関する歴史学及び社会学、人類学的な問題と分析方法を意識する。震災に関する英語の研究を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The primary goal of the class is for students to learn the methods of understanding and analyzing disasters from the disciplinary perspectives of history, sociology, and anthropology. Students will also gain familiarity with English-language research on the topic.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：序論：2011.3.11

第2回：日本における災害：概論

第3回：知物理学の支店からみる日本

第4回：江戸時代の飢饉

第5回：学生発表：天保の飢饉とジャガイモ飢饉

第6回：関東大震災：背景

第7回：関東大震災：結果

第8回：学生発表：関東大震災とサンフランシスコ地震

第9回：日本本土空襲

第10回：学生発表：日本とドレスデンの爆撃

第11回：東北地方太平洋沖地震：背景

第12回：東北地方太平洋沖地震：結果

第13回：学生発表：東北地方太平洋沖地震と2004年スマトラ島沖地震

第14回：原子力発電について

第15回：学生発表：福島とチェルノブイリ

8. 成績評価方法：

一回のリアクションペーパー【40%】 発表【40%】 出席・参加【20%】

9. 教科書および参考書：

各時間に適宜資料を配布する。

Readings will be distributed for each class.

10. 授業時間外学習：

各時間の前に適宜資料を読む。

1回発表する。

1回資料のリアクション・ペーパーを書く。

Class readings are to be completed before class meetings.

1 class presentation is to be done.

1 reading response is to be submitted.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

This class is taught in English. All readings are in English and all assignments and tests are to be submitted in English.

科目名：現代日本学演習Ⅱ／ Innovative Japanese Studies Seminar II

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB55401, 科目ナンバリング：LHM-OHS309J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論演習 】

1. 授業題目：

統計分析の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of Statistical Analysis

3. 授業の目的と概要：

意識調査・テスト・実験などのデータはどのように分析すればいいでしょうか。この授業では、小規模の標本調査を念頭において、統計分析の基礎的な手法を学びます。これまで統計的な分析をおこなったことのない人を対象に、初歩から講義します。同時に、コンピュータを実際に使って、データ分析の実習をおこないます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course is an introductory course for statistical analysis. Using a statistical package application, students learn basic concepts and methods such as crosstabulation, comparison of means between two groups, and statistical test.

5. 学習の到達目標：

(1) 統計分析の基礎を理解する；(2) データ分析ができるようになる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To understand the basics of statistical analysis;
- (2) To acquire skills to conduct data analysis

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- インTRODakション
- SPSS 入門
- 統計分析の基礎
- 度数分布表とグラフの利用
- クロス表分析の基礎
- 連関係数
- クロス表の解釈
- ここまでの復習と進度確認課題
- 平均と分散
- 平均値の比較
- 分散分析
- 推測統計の基礎と区間推定
- 統計的検定
- さまざまな検定手法
- 全体のまとめとレポート内容についての相談

8. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。

9. 教科書および参考書：

【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。

10. 授業時間外学習：

毎回の課題とレポート作成の準備

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

実習室で使用できるコンピュータ台数が限られているため、受講人数を制限することがある。授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本学演習Ⅲ／ Innovative Japanese Studies Seminar III

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB54201, 科目ナンバリング：LHM-OHS310J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論演習 】

1. 授業題目：

現代日本における社会問題の分析

2. Course Title (授業題目)：

Research of Social Problems in Modern Japan

3. 授業の目的と概要：

家族制度・人口変動・社会政策を中心として、近代以降の日本における社会問題の変遷を学ぶ

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

社会問題を分析するための基本的なスキルを習得する

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

受講者各自の関心にしたがって文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながら日本近代史に関するレポートを作成する。

第1回：はじめに：この授業での課題設定と調査の方法

第2回：近代日本における家族制度・人口変動・社会政策の概要

第3回：課題設定のための討論

第4回：文献検索とデータベース利用

第5回：近代日本の統計システム

第6回：統計資料の評価と活用

第7回：各自のテーマと先行研究について報告と討論

第8回：近代史研究のための専門用語と理論体系

第9回：アイデアの創出

第10回：アイデアの交換と建設的批判

第11回：途中経過の報告と討論

第12回：プロジェクトとしての近代史研究

第13回：研究の倫理

第14回：発表会

第15回：発表内容についての講評および期末レポート作成に向けての注意事項

8. 成績評価方法：

授業中の課題（30%）、途中経過等報告と討論での発言（30%）、期末レポート（40%）

9. 教科書および参考書：

佐藤望ほか（2012）『アカデミック・スキルズ』（第2版）慶應義塾大学出版会

10. 授業時間外学習：

授業で指示する課題をこなしながら、各自の関心にしたがって研究プロジェクトを進める

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：現代日本学演習Ⅳ／ Innovative Japanese Studies Seminar IV

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB65501, 科目ナンバリング：LHM-OHS311J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論演習 】

1. 授業題目：

調査的面接の基礎

2. Course Title (授業題目)：

Basics of In-depth Interview

3. 授業の目的と概要：

面接法による質的調査の方法についての講義と実習をおこないます。講義では、面接調査の基本的な方法とプロセスについて解説します。実習では、受講者が各自の選んだ研究テーマに沿って文献収集をおこない、面接調査を実施し、その結果をレポートとして提出します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students learn basics of interview as a qualitative research method. Along with lectures on concepts and theory of in-depth interview, students plan, conduct, transcribe, and analyze interviews based on their own theme.

5. 学習の到達目標：

- (1) 面接調査の長所と短所を把握する；
- (2) 面接調査の実際のプロセスについて、体験を通して習得する

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- (1) To understand the advantage of the interview method;
- (2) To learn the real process of interview research by practice

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- インTRODakション
- 研究のイメージをつかむ
- 調査的面接の方法
- シナリオの作成
- 面接実習
- 面接実習結果について検討
- 対象者の選びかた
- 調査計画について討論
- インタビュー実施から書き起こしまで
- 分析
- 報告書
- 発表会
- 調査的面接の倫理
- 全体のまとめとレポート執筆に向けての討論

8. 成績評価方法：

授業中の課題（50%）、調査結果に基づく口頭発表とレポート（50%）を合計して評価する。

9. 教科書および参考書：

【教科書】松浦均・西口利文（2008）『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版。

10. 授業時間外学習：

各回の課題と各自の調査企画、実施およびレポート作成

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

5セメスタ開講の現代日本学演習Ⅰ「質問紙調査の基礎」も履修することが望ましい。

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本学演習V／ Innovative Japanese Studies Seminar V

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：田中 重人（准教授）

講義コード：LB65402, 科目ナンバリング：LHM-OHS312J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 現代日本論演習 】

1. 授業題目：

実践的統計分析法

2. Course Title (授業題目)：

Statistical Analysis in Practice

3. 授業の目的と概要：

研究の現場で必要となる統計分析手法は、分析の目的とデータの特徴によってさまざまです。この授業の前半では、推測統計学の基本的な概念について解説し、統計的推定および検定の方法について学びます。後半では、さまざまな分析手法をとりあげて、それらの特徴と使い方を習得していきます。どのような分析手法をとりあげるかについては、受講者の関心と必要性を考慮します。統計解析パッケージを使ってデータ分析の実習をおこないます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students learn advanced-level statistical methods, using a statistical package application.

5. 学習の到達目標：

さまざまな統計分析手法を理解し、使いこなせるようになる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

To know how to make proper use of a variety of statistical methods according to the focus of the analysis and properties of the data

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 推測統計の基礎
- 正規分布の利用
- 統計的検定と検定力
- 順位相関係数
- 積率相関係数
- 相関係数行列
- ここまでの復習と進度確認課題
- 符号検定
- 対応のある平均値の比較
- 多変量解析
- 全体のまとめとレポート内容について相談

8. 成績評価方法：

授業中の課題と宿題（70%）、期末レポート（30%）を合計して評価する。

9. 教科書および参考書：

【教科書】吉田寿夫（1998）『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房。

10. 授業時間外学習：

毎回の課題とレポート作成の準備

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

5 セメスタ開講の現代日本学演習 II 「統計分析の基礎」 を履修済みか、それと同等の知識を習得済みの者を対象とする。

